

第 14 回 昭和村統合小中学校推進協議会 議事報告

日 時：令和 8 年 5 月 29 日(金)

午後 6 時 30 分～

場 所：昭和村コミュニティセンター 大会議室

出席者：21 名（事前投票 1 名）

【会議概要】

本会議では、5 月 12 日から 19 日にかけて実施された区長会議及び地域説明会における質疑応答等の総括が報告された。その後、説明会での意見を踏まえた新たな評価視点に基づき、「一対比較法」を用いて建設候補地の絞り込みのためのグループ協議と投票を行った。結果、既存校舎の活用・解体新築案については南小学校が、新地案については鎌沢がそれぞれ全会一致または多数の支持を得て優位とされた。次回の会議で「南小の活用」と「南小の解体新築」のいずれかを選択し、その案と「鎌沢」とを比較して、最終的な候補地を 1 か所に絞り込むことで合意した。

1 開 会 （進行：事務局星野補佐）

2 あいさつ （会長：小野教育長）

3 協議事項（進行：小野会長）

（1）区長会議及び地域説明会の総括について（説明：局長）

5 月 12 日から 19 日にかけて実施した区長会議・地域説明会（全 5 回、計 44 名参加）での主な質問や意見について、建設場所が決定した後の学校教育のあり方、説明会後の後戻りの懸念、用地確保や地盤調査、建設決定後の工事期間中の児童への影響、周辺道路や生活環境変化への対応（代替地等）などについての回答を共有した。Q&A については概要を広報誌等で公開していく予定である。

（2）建設候補地の絞り込みについて（説明：局長）

地域説明会の意見等を反映し、新たに以下の視点を加えて各候補地の比較検討を行うこととした。

埋蔵文化財調査の影響、既存校舎活用・解体新築時の児童の移動に伴うスクールバス等費用、新設地（鎌沢）における用地取得・地盤補強費用、生活道路分断に伴う代替地・周辺道路整備費用、災害時の保護者送迎ルートの適性、村づくりの視点（人口減少対策・定住促進等）、建設費の上昇予想

【グループ協議・投票結果】（出席委員 22 名による投票）

絞り込み方法については「一対比較法」を用い、共通項を持つ候補同士を比較してグループ協議と投票を行った。

① 既存校舎活用案同士の比較（東小校舎活用案 VS 南小校舎活用案）

結果：東小 0 名、南小 22 名

② 既存校舎解体新築案同士の比較（東小解体新築案 VS 南小解体新築案）

結果：東小 0 名、南小 22 名

③ 新地新築案同士の比較（福祉センター東側案 VS 鎌沢案）

結果：福祉センター東側 4 名、鎌沢 18 名

【結果】 既存校舎の活用および解体新築のいずれにおいても「南小学校」が優位、新地・新築においては「鎌沢」が優位とする結果となった。これにより、「南小活用案」と「南小解体新築案」の比較検討を各委員への宿題とし、次回（第 15 回）にていずれか一つを決定し、その 1 案と「鎌沢案」を実質的に比較して候補地を 1 か所に絞り込むこととした。

(3) その他（各委員の意見等）

今後のスケジュールについて（局長）

基本構想の確定に向け、6 月の村議会に「昭和村議会の議決すべき事件に関する条例」の改正案（基本構想の策定等に議決を要する旨）を提出し、9 月議会での基本構想議決を目指す

・鎌沢の施設配置・周辺道路について（委員）

鎌沢の生活道路を活かし、野球場やテニスコートを省いた場合の試算を検討してほしい。

南小で文化財が出土して 2～3 年工期が延びた場合の物価上昇分と比較するシミュレーションが判断材料になるのではないか。

⇒（回答）敷地範囲を北側に広げて生活道路とグラウンドを切り離す案など、対応を検討している。

・文化財調査期間と開校時期について 南小で文化財が出土した場合、令和 13 年 4 月の開校に間に合うのか。

⇒（回答）国庫補助金を活用する場合は約 3 年かかるが、補助金を使わない選択肢や、先に新校舎を建てて学校生活をスタートさせるなどの工夫により、影響を最小限にする努力をしていく。

・建設費の超過懸念について

鎌沢等に決定した場合で、予算が大幅に超過して途中で頓挫するリスクはないか。

⇒（回答）財政面はしっかりと計算していく。施設規模の縮小等も含め、柔軟に対応しながら進めていく。着工が遅れば遅れるほど建設費が上がるため、早い段階での決定と推進が重要である。情熱を持って進めていきたい。

5 閉 会（河野副会長） 次回開催日時 6 月 1 日（月）午後 6 時 30 分～